

一般国道11号高松東道路（8工区）の現状について

香川河川国道事務所
道路調査課 多田従道

1. はじめに

香川河川国道事務所において事業中の高松東道路は、高松市内においてその上部を通過する日本道路公団の四国横断自動車道と同時施行していたが、その高速道路部は昨春に全線供用された。一方平面部の国道も一部完成供用しており、残る区間も今年春の6車線化をめざし鋭意工事中である。

今回このうち高松東道路8工区の現状について紹介する。



2. 1 事業概要

一般国道11号高松東道路は、さぬき市津田町から高松市檀紙町に至る全長28.4kmのバイパスであり、このうち約16.5kmは一般国道の自動車専用道路として建設し、舗装・安全施設等の事業費は日本道路公団が負担し、現在同公団が一般有料道路として管理している。

一般道路の14.2km（三木町付近の2.3kmは自専道と一般道路を重複して建設）のうち8.5kmは4・6車線で完成し、残る区間（主に8工区）も今年春には6車線化する予定である。

今回紹介する8工区は一般国道11号と一般国道193号が交差する上天神町交差点から高松市檀紙町（高松檀紙IC付近）間の3.9kmである。

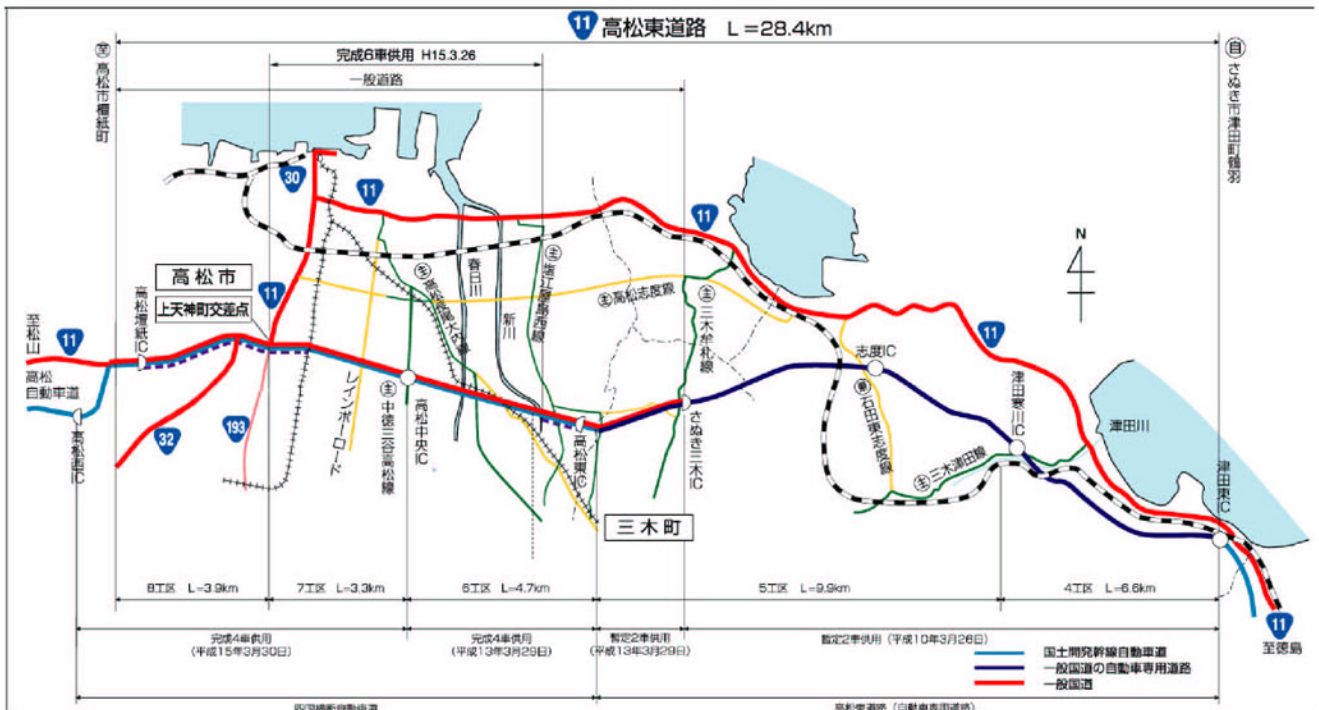


図-1 高松東道路 位置図

2. 2 8工区の概要

本工区は次ページの横断図のように、従来全幅32mで完成していた高松南バイパスの中央分離帯部に四国横断自動車道を建設することとなったため、これを機に隣接する6・7工区と同様の幅

員で計画したものである。また、事業実施に当たっては日本道路公団も応分の負担をしている。

工事はまず国道11号を両側に拡幅し、中央分離帯部に高速道路を施工するため、国道の車線数を6車線から4車線に規制することとなり、現場において工事が錯綜することや、国と日本道路公団両者間での協議も頻繁に必要となること等により、本工区の範囲の高速道路部は日本道路公団より国が受託した。

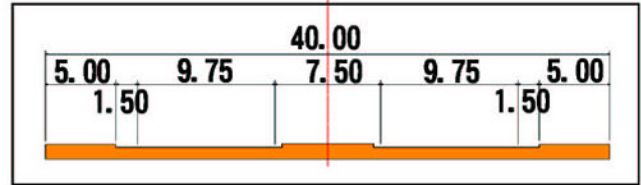
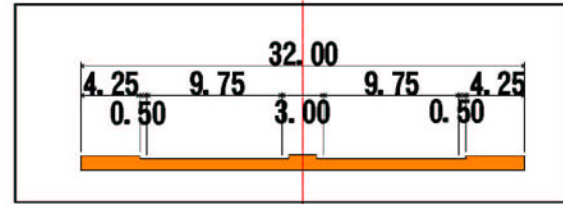


図-2 横断図（上段；着手前 下段；計画）

また、香川県でも有数の交通量を誇る上天神町交差点は一番上に高速道路、その下にロの字形で四隅にエレベーターを設置した横断歩道橋、さらにその下の平面部は一般道路、そして一番下に一般道路の東西方向を立体交差化した地下道があり、四層構造となっている。

3. 8工区の進捗状況

昨年3月30日に高速道路部が完成供用されており、国道にかかる横断歩道橋も既設橋の復旧を含めた8橋全てが供用済みである。

現在は今年3月中の国道部の完成供用に向け、中央分離帯、自転車歩行者道の整備、そして車道部の排水性舗装等を施工中である。

3.1 上天神横断歩道橋

上天神横断歩道橋は交差点の四隅を結ぶロの字形で計画され、国道を横断する通路部の径間長がいずれも40mを越える県下最大の歩道橋である。朝夕は通勤通学の人が多く、昼間は付近の大型商業施設等へ向かう主婦が多く通行する交差点であるため斜路付き階段部幅員 $W=2.6$ m、横断通路部幅員 $W=3.0$ mとし、さらに養護学校、リハビリテーション施設も近隣にあることから内空 1.6 m \times 1.35 mの13人乗りエレベーターも設置されている。また、高松市内へ流入する域外車両の多くが通過する交差点であり、その人々のランドマークとなるよう橋桁等の色を、香川の空と海をイメージした青とした。昨年10月7日に、地元の小学生と養護学校児童を迎えて供用式典を行い、併せて、子供達に道の役割を分かりやすく説明するとともに歩道橋・エレベーターの利用方法を紹介した。

3.2 中央分離帯

標準幅員で6.5mの幅を持つ分離帯の整備にあたっては、インターネットを利用して一般の方々より、その整備方法について広く意見を募集した。遊び場として解放するという意見もあったが、広さもあまりなく、交通の危険と隣り合わせの区間であるため右図の案とした。

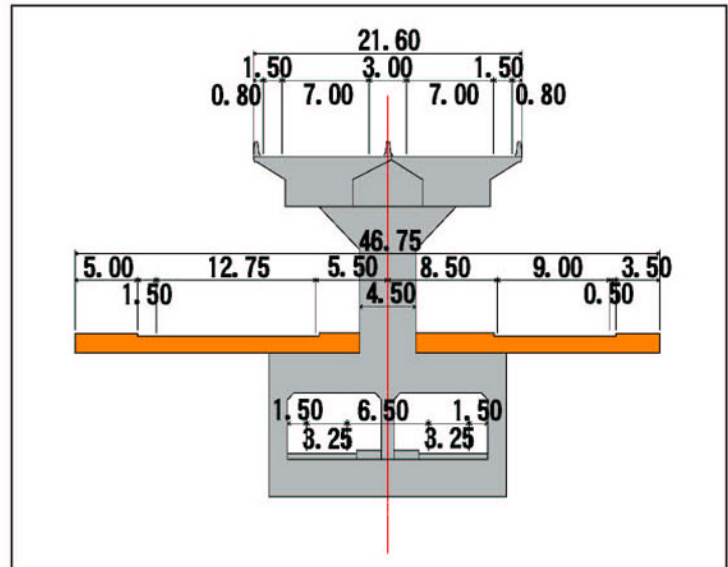


写真-1 中央分離帯整備イメージ

これは当該道路が東西に走っており、その上に高速道路が”屋根”のようにあり、日光や雨を遮ることから全面的な緑化は行わず、真ん中に間伐材を利用した横断防止柵、その両側に防草の意味合いでリサイクル砂利を敷き、縁石付近にカバーとして花を植えることとしたものである。

3. 3 上天神地下道

高速道路の供用後も多くの交通が残る上天神町交差点の混雑緩和を目指して、東西方向の上下各1車線をアンダーパスとして計画した。一番上を通過する高速道路と平面的に重なるため、地下道部は右図の様な特殊な構造となっている。現在、機械・電気施設、安全設備、舗装工事等を施工中である。



図－3 地下道部構造図

4. さいごに

本工区の完成により、上天神町交差点を初めとする交差点の混雑が緩和され、歩道橋により自転車歩行者の安全性も向上する。また、歩道橋、標識、照明等もデザインに配慮しているため、景観も向上するものと考えている。

最後に、車線の迂回、車線数規制等通行車両の皆様には大変ご迷惑をかけていますが、今年3月中の供用を目指し、事故のないよう安全に配慮しつつ施工してまいりますので、今暫くの辛抱をお願いする。



写真－2 中森大橋東交差点より徳島側を望む



写真－3 勅使交差点より徳島側を望む